

めぐって農泊。 つないで農福。



北陸農政局「消費者の部屋」

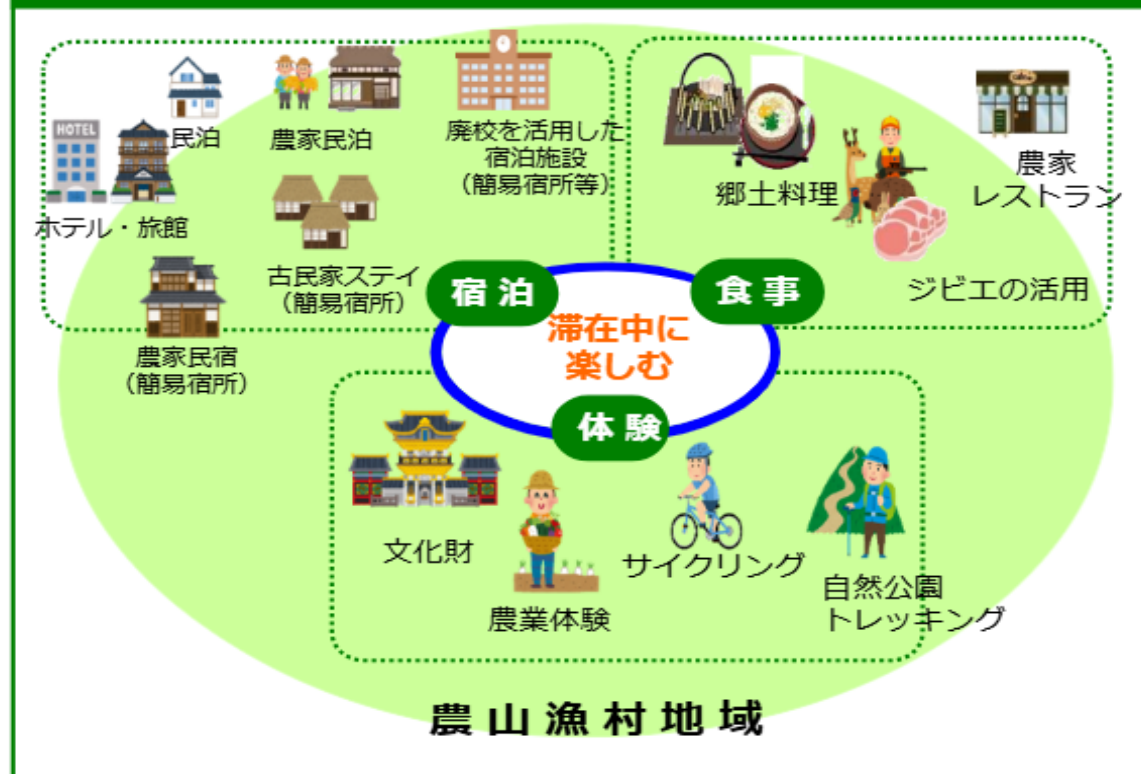
展示期間：令和8年7月1日（水）～7月31日（金）



「農泊」とは？

- 「農泊」とは、農山漁村地域ならではの伝統的な生活体験と地域の人々との交流を楽しみつつ、農家や古民家等での宿泊によって、旅行者にその土地の魅力を味わってもらう**農山漁村滞在型旅行**。

農泊（農山漁村滞在型旅行）



農泊推進体制

法人化された**中核法人**を中心として、多様な関係者がプレイヤーとして地域協議会に参画し、**地域の仲間が一丸となって**取り組むことを推進。



※ 中核法人は、地域における宿泊、食事、体験等の中核を担うとともに、地域全体のマーケティングやマネジメント等の協議会構成員間の調整を行う。

【めぐって農泊。つないで農福。】②

● 農泊の特徴

例えば…

① 直売所をつくるだけでは… 滞在時間：短 → 「**通過型観光**」



② 宿泊・体験・食事を加えると…滞在時間：長 → 「**滞在型観光**」



- 農泊を推進することで…

農山漁村地域の活性化

農山漁村地域の農林漁家の
所得向上と雇用の増大により
地域を持続可能なものとし
食の安定的な供給を行うことができる！



農山漁村振興交付金（農泊推進型）支援策について

○事業の目的：地域の関係者・仲間が一丸となった取組による地域の所得向上への支援

地域全体に利益



- ① 「**地域の仲間が一丸**」となった
取組を支援しています
(関係者が参画した地域協議会)

持続可能



- ② 「**ビジネス**」化に向けた
取組を支援しています
(責任が明確な法人が牽引)

訪問者のニーズに基づく
「魅力あるモノ・コト」
の創出

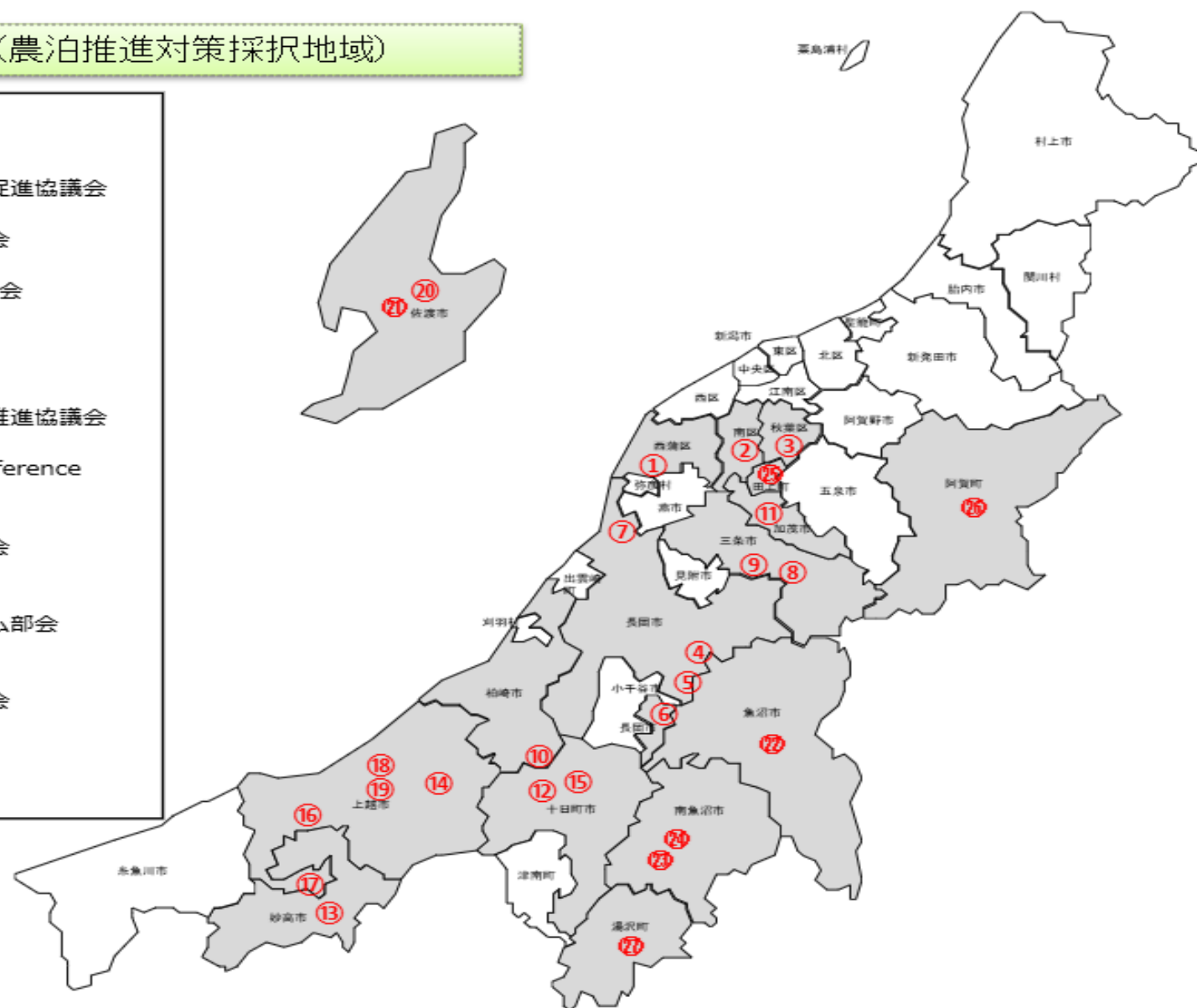


- ③ **三本柱**の磨き上げを支援しています
- | | | |
|---|-------|---|
| { | 宿 | 泊 |
| | 食 | 事 |
| | 体験・交流 | |

【めぐって農泊。つないで農福。】⑤

新潟県の農泊地域一覧(農泊推進対策採択地域)

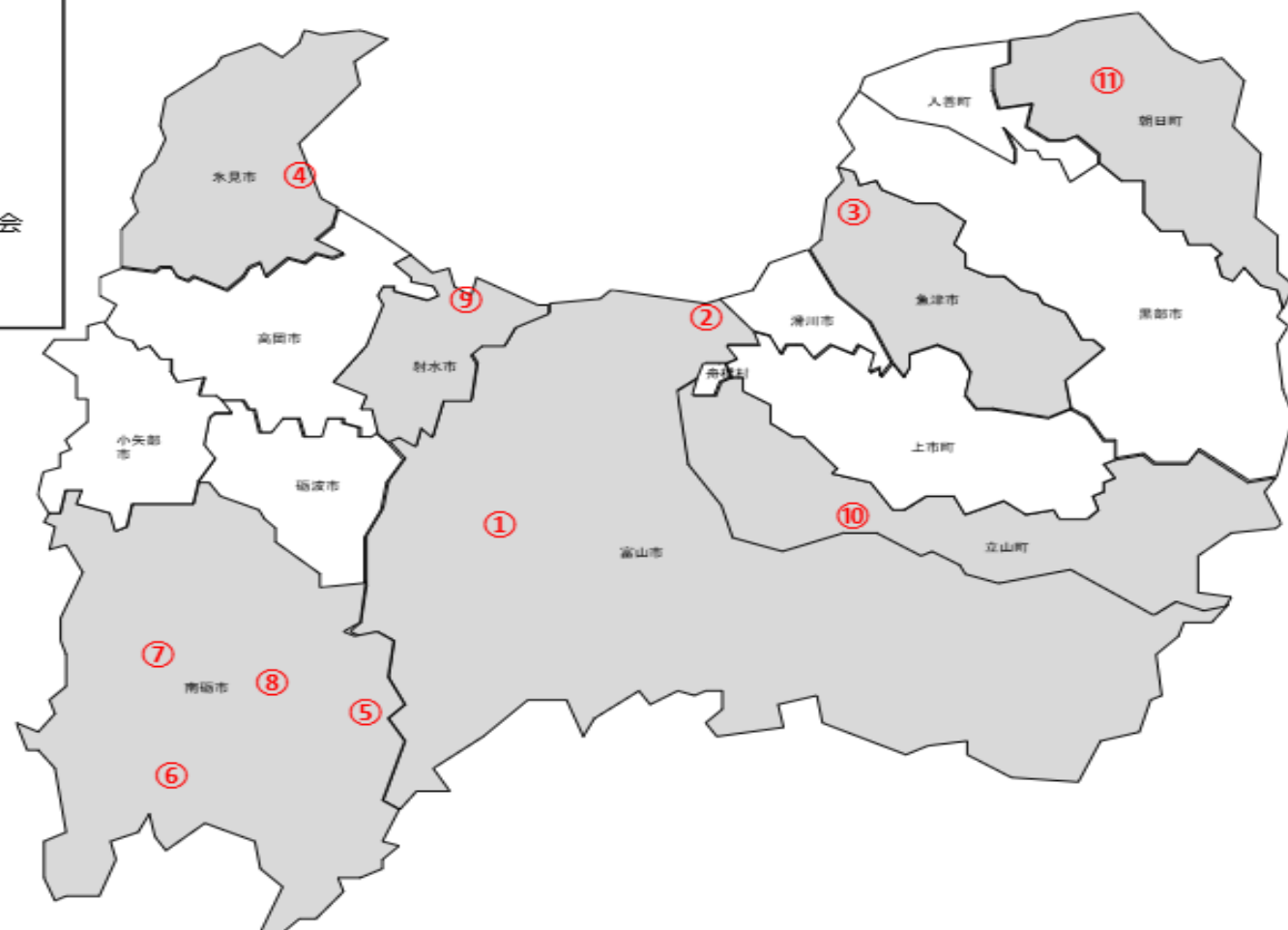
- ①岩室温泉地域づくり協議会
- ②新潟市南区農泊推進協議会
- ③秋葉区まちづくり協議会
- ④北苧頃一之貝軽井沢集落連絡促進協議会
- ⑤山古志農泊推進協議会
- ⑥えちご川口交流事業推進協議会
- ⑦寺泊広域まちづくり協議会
- ⑧下田郷SATOYAMAみらい協議会
- ⑨三条市農泊推進協議会
- ⑩荻ノ島農泊推進協議会
- ⑪加茂農泊推進協議会
- ⑫三省ハウス運営連絡協議会
- ⑬妙高市グリーン・ツーリズム推進協議会
- ⑭越後田舎体験推進協議会
- ⑮Mizusawa Rice Terrace Conference
(水沢棚田協議会)
- ⑯かみえちご地域研究会
- ⑰雪郷おかざわ地域づくり協議会
- ⑱上越地域農泊推進協議会
- ⑲上越南農泊推進協議会
- ⑳佐渡農泊・グリーンツーリズム部会
- ㉑佐渡農漁体験創発協議会
- ㉒魚沼ゆのたに農泊推進協議会
- ㉓牧之通り・吉里農泊推進協議会
- ㉔南魚沼市農泊事業推進協議会
- ㉕田上町農・泊連携推進協議会
- ㉖阿賀町農泊推進地域協議会
- ㉗越後湯沢交流事業推進協議会



【めぐって農泊。つないで農福。】⑥

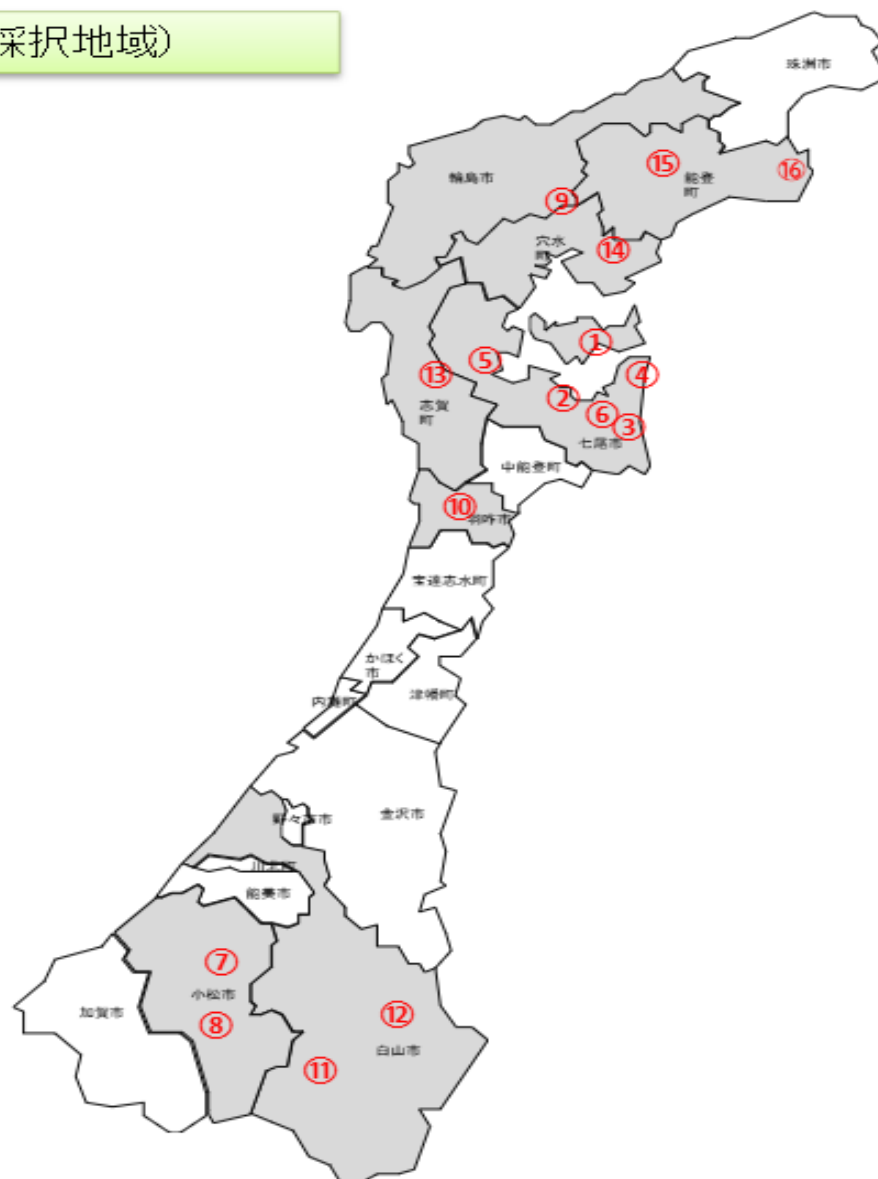
富山県の農泊地域一覧(農泊推進対策採択地域)

- ① 山田地域都市農村交流協議会
- ② とやま遊水会地域協議会
- ③ 魚津市農泊推進協議会
- ④ 氷見市宿泊体験推進協議会
- ⑤ 南砺市利賀地域長期宿泊体験協議会
- ⑥ 五箇山合掌の里活性化協議会
- ⑦ 太美農泊推進協議会
- ⑧ 城端地区活性化協議会
- ⑨ アルベルゴディフーズ新湊を拓く協議会
- ⑩ 立山町インバウンド農泊推進協議会
- ⑪ 朝日町民泊推進事業実行委員会



石川県の農泊地域一覧(農泊推進対策採択地域)

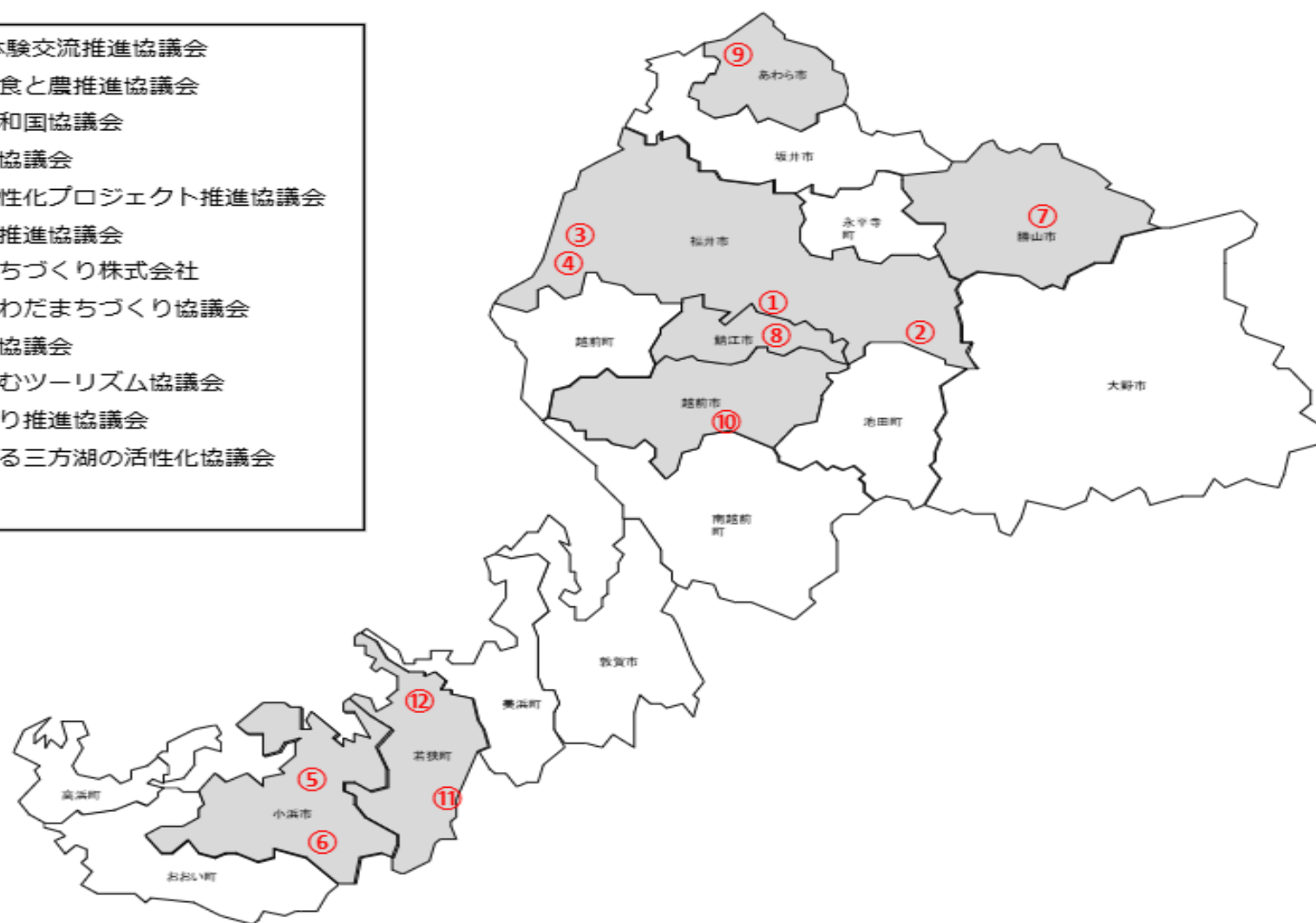
- ① 能登島ベスカグリ・ネットワーク
- ② 俺たちの能登地域活性化協議会
- ③ 大吞地域農泊推進協議会
- ④ 崎山半島渚泊推進協議会
- ⑤ 中島地域づくり協議会
- ⑥ 矢田町スローツーリズム推進協議会
- ⑦ TAKIGAHARA農泊推進協議会
- ⑧ 伝泊小松大杉・日用地域協議会
- ⑨ 里山まるごとホテル推進協議会
- ⑩ はくい式自然栽培実行委員会
- ⑪ 白峰林泊推進協議会
- ⑫ 白山ろくスローツーリズム研究会
- ⑬ くまの地域づくり協議会
- ⑭ 能登あなみず農泊推進協議会
- ⑮ 春蘭の里・里山ステイ推進協議会
- ⑯ 能登九十九湾振興協議会



【めぐって農泊。つないで農福。】⑧

福井県の農泊地域一覧(農泊推進対策採択地域)

- ① 福井市自然体験交流推進協議会
- ② 伊自良の里・食と農推進協議会
- ③ 越しのくに共和国協議会
- ④ 越前里山里海協議会
- ⑤ 内外海地区活性化プロジェクト推進協議会
- ⑥ 松永地区農泊推進協議会
- ⑦ 勝山市観光まちづくり株式会社
- ⑧ うるしの里かわだまちづくり協議会
- ⑨ 波松農泊推進協議会
- ⑩ いのちはぐくむツーリズム協議会
- ⑪ 熊川まちづくり推進協議会
- ⑫ 伝統漁法による三方湖の活性化協議会



北陸の農泊を伝える舞台裏

～テレビ番組ができるまで～



✓ 放送された番組の一部もご紹介

放送シーン①



農泊の魅力をご紹介します！

放送シーン②



農山の絶景を歩きます。

放送シーン③



受け継がれてきた農文化を体験します。

放送シーン④



絶倫お漬物を体験します。

放送シーン⑤



地元食材を使った料理を味わいます。

① 下見、打ち合わせ



地域の魅力をどう伝えるか、事前に下見を行い、出演者や地域の方々と撮影内容を確認します。

② 撮影準備



カメラや照明を設置し、撮影場所を最終確認します。

③ 本番撮影



料理が魅力的に見えるよう、角度や光を調整して撮影します。

④ 編集・確認チェック



完成した番組をみんなで確認し、内容に問題がないか確認します。

⑤ 放送へ



いよいよ放送へ！みなさんのもとへ番組をお届けしました！

完成！

取材や撮影を重ね、北陸の農泊地域の魅力がテレビ番組として放送されました。

地域の皆さんの想いや体験の魅力を発信しました。



ただいま、番組の上映中！！



農福連携に取り組まれている農業者の声

○三つ星株式会社(福井県坂井市)

「未来へ」、「地域で」、「人と人を」つなぐ農業

農福連携に取り組んだ経緯

埼玉県の大規模白ネギ生産をしている法人の視察に行き、出荷調整の作業のほとんどを農福連携で取組んでいることを知りました。今後の経営を考えた場合、労働力不足を懸念していたことから関心を持った。

農福連携に取り組んでみて

障害者の方たちが、最初できなかった作業ができるようになることが、何より嬉しい。障害者本人の生きがいにもなっているし、障害者の家族も喜んでいることを実感しています。白ネギの作付面積が当初より1割増加でき、農福連携により経営規模の拡大が図られました。

農福連携を考えている農業者へ一言

私自身、障害者と接したことがなく、どう接したらよいのかわからず、不安な面がありました。しかし、農福連携に取り組む始めてみたら不安だと思っていたことが、何てことはないと感じました。



下葉かき作業



根切り・葉切り作業



皮むき作業



袋詰め作業

農福連携に取り組まれている農業者の声

○ホーリーバジル農園(福井県坂井市)

自然にやさしいハーブ栽培で農福連携

農福連携に取り組んだ経緯

私自身も病気が原因で障害者となり、障害者の自立支援に関心を持つようになりました。ハーブティーの商品化までの作業は細分化できるので、農福連携で農園の作業をいっしょに行えないかと考えました。

農福連携に取り組んでみて

作業の細分化を図り、主に簡単な作業は施設外就労でB型就労継続支援事業所に、検品や軽量など少し高度な作業は施設内就労でA型就労継続支援事業所に委託することで作業効率が良くなり、農福連携により労働力が確保できたことで、売上の確保につながりました。

農福連携を考えている農業者へ一言

6次産業化の農業は、作業のすき間があり、作業の細分化ができると考えます。障害者の方は、袋詰めや箱詰めなど頑張ってくれますし、とても力になる印象です。マッチングの機会を活用して、農福連携に取り組んでもらえたらよいのではないかと考えます。



収穫作業



洗浄作業



ほぐし作業



ティーバッグ詰め作業

農福連携に取り組まれている農業者の声

○笠間農園(石川県内灘町)

「多様な人財が活躍する農園」

農福連携に取り組んだ経緯

近くの就労支援施設から、「障害者に農作業をさせて欲しい」と依頼され、笠間農園の人手不足も重なり、施設外就労として受入れを開始、今ではたくさんの障害者の方に農作業を補っていただけてます。

農福連携に取り組んでみて

農福連携を始めて障害者の向いている作業栽培面積、栽培品目を増やし、たくさん出荷できるようになった。

障害者の方の笑顔や優しさが農園に彩を添えてくれる。

農福連携を考えている農業者へ一言

北陸の各県に農福連携のマッチングをするコーディネーターがいる。石川県では私(笠間令子さん)がコーディネーターをしているので、相談していただければ、各々の農家さんに合わせた農福連携のアドバイスをします。



えだまめの選果



小松菜の収穫



玉ねぎ苗の出荷



ケーキづくり

農福連携に取り組まれている農業者の声

○こまつな菊ちゃんハウス(富山県射水市)

農業を通じて障害者の方の力になりたい。

農福連携に取り組んだ経緯

障害者就業生活支援センターからの依頼で短期間の体験実習生として障害者を受け入れたが、十分な戦力となってくれたので雇用した。今は従業員22名のうち5名の障害者が健常者と同じ農作業に従事している。

農福連携に取り組んでみて

障害者の方は仕事に対して真面目で、私たちも見習はないといけないところがある。時には頑張りすぎて無理をするくらいがあるので周りが声掛けなどして配慮する必要はあるが、しっかりと働いてくれるので、規模を拡大するときは障害者、健常者関係なく雇用する。

農福連携を考えている農業者へ一言

障害者と聞くと躊躇する人もいるが、農業に向き不向きがあるのは障害者も健常者も一緒、健常者と同じ内容の作業がなくても、出来る作業を任せることで、戦力になるのですから受け入れてみることから始める。



小松菜ビニールハウス



収穫前の小松菜



選果・出荷施設



収穫作業

農福連携 × スマート農業

農福連携の現場で
スマート農業に取り組む事例があります。

農福連携って何？

農業と福祉が連携し、
障害者の農業分野での
活躍を通じて、
農業経営の発展
とともに、
**障害者の自信や
生きがいを創出し、
社会参画を実現する取組です。**

スマート農業って何？

**ロボット、AI、IoTなど
先端技術を活用する農業**
のことです。
農作業の効率化、
農作業における
身体負担の軽減、
農業の経営管理の合理化による
農業の生産性の向上の
効果が期待されます。

作成：一般社団法人日本農福連携協会、株式会社マイファーム 令和8年3月1日発行
※農林水産省「令和7年度農山漁村振興交付金」を活用して作成



農福連携×スマート農業の事例①

福井県あわら市

有限会社あわら農楽ファーム

基本情報

- 所在地：福井県あわら市山室72-101
- 設立：2001年3月（2013年に現社名へ変更）
- 経営面積：105ha（うち作業受託28ha）
- 主な作物：水稲（主力）、さつまいも、いちご、メロン、柿など
- 受賞歴：ノウフク・アワード2023準グランプリ「未来を耕す」
- その他：認定農業者
2013年に就労継続支援A型事業所「株式会社農楽里」を設立
※ノウフク・アワード2023優秀賞



取組概要

就労継続支援A型事業所「株式会社農楽里」と連携し、農福連携で水稲や野菜の栽培、農産加工、観光いちご農園などに取り組む。



スマート農業と農福連携の可能性

スマート農業は、農福連携と、とても相性がいいと思っています。アシスト機能やセーフティ・ストップ機能のおかげで**安全に作業でき、高度な農作業へのハードルがぐっと下がります。段階的に操作を覚えられるので、「できる」という実感が、障害者の仕事への意欲やモチベーションの向上につながっています。**

有限会社あわら農楽ファーム／執行役員 菅澤峰雄氏

スマート農業の導入技術と障害者の活躍

導入技術	障害者の関わり方
ロボット田植え機・アシスト付きコンバイン	障害者がオペレーターとして活躍。安全機能（セーフティ・ストップ）により操作負担や事故リスクを低減。作業する障害者はヘルメットやイヤホン・イヤーマフを着用し、ほ場にいる職員と常に連絡がとれる体制をとり、障害者が安心感を持って作業できる環境を整えている。
小口精米ユニット・乾燥調整施設（遠隔操作）	従来の精米作業は職員が中心に行っており、障害者は袋詰め・運搬等の補助的作業であったが、小口精米ユニットの導入により、今は、選入から検品、計量、袋詰めまでほとんどの作業を障害者が担当している。 ※乾燥調整施設の遠隔管理はパソコンで遠隔操作が可能のため、職員が常駐しなくてもよい。



ロボット田植え機での田植え作業



出荷調整施設での袋ガールの組み立て作業

※FDM（防犯用）や業務管理システムも導入。同技術は職員が操作を行う。

農福連携におけるスマート農業の効果

- **障害者の作業領域拡大**
これまで職員や熟練者に限られていた作業も障害者が携われるようになり、作業の幅と役割が大きく広がっている。あわら農楽ファームでは、大規模な面積の効率的な管理につながり、職員が実施できる作業の拡大にもつながっている。
- **障害者の自信・生きがいの創出**
自分にはできないと思っていた作業を高精度かつ効率的に実施できることで、大きな喜びと自信、そして誇りにつながっている。
- **労働力や担い手の確保・作業効率の改善**
⇒ **経営耕地面積の拡大** (作業受託面積を含む) R2: 74ha ⇒ R6: 105ha
- **品質向上・農作業以外の時間の創出** (販路拡大)
⇒ **売上高の向上** R2: 6,417千円 ⇒ R6: 21,454千円
- **障害者の賃金向上**
障害者へ支払う平均賃金月額 R2: 71,306円 ⇒ R6: 87,038円



アシスト付きコンバインでの稲刈り作業

障害者がスマート農業等で活躍するための工夫

- **まずは刈払機による草刈りから挑戦**
エンジンの始動・停止や給油といった機械操作の基本から指導することで、体力と技術を段階的に習得していき、最終的にコンバインといった農業機械等も扱うことができるようになっていく。
- **安心して挑戦できる環境づくりと人材育成**
本人の挑戦意欲を尊重し、成功体験を積み重ねることで自信と誇りを育てる。あわせて、操作研修や安全講習を通じた資格取得・技能習得を支援し、身につけた知識や技術を自らの強みとして実感できるようにすることで、将来の選択肢拡大や次のステップへの意欲向上につなげている。
- **安定供給の実現**
農産物の「価格の安定」「量の確保」「品質の安定」を実現することが大変重要。スマート農業で障害者の自信やモチベーションの向上につなげている。



刈払機での草刈り作業

スマート農業で活躍している障害者数 R2: 0名 ⇒ R6: 4名

その他、有限会社あわら農楽ファームの特徴

- **特別栽培米の栽培**
有機質肥料の活用や水管理の徹底により、品質の高い米づくりを行い、環境負荷の低減及び付加価値の創出につなげている。
- **特別栽培米や加工品をふるさと納税の返礼品として展開**
販路の拡大と安定及び認知度向上を図るとともに、地域の集客に貢献している。
- **地域農業への貢献**
高齢化や担い手不足により耕作が難しくなった農地の引き受けや、作業受託を通じて地域農業を支えている。



稲米の収穫



ふるさと納税の返礼品づくり

作成：一般社団法人日本農福連携協会、株式会社マイファーム 令和6年3月1日発行 ※農林水産省「令和7年度農山村振興交付金」を活用して作成

